

The Jumonji Press

十文字学園女子大学・短期大学部

新座キャンパスだより

No. 40
2013.2

学園創立90周年記念

公開講座・保護者会 in 川越

第46回 桐華祭

- 一人一人が個性を光らせた2日間
- 講演会「伊達家当主が語る戦国武将の素顔」

08▶「学生記者特報班」発 齋藤麗子先生「たばこの危険性と子どもを産む女性としての責任」

10▶十文字ニュース さつまいもプロジェクト／ゾウキリンくらぶ活動報告 ほか

14▶公開講座レポート・入試情報 16▶『ナチュライフ十文字』第3号発行

Spotlight on Campus

地域フリーペーパー

『ナチュライフ十文字』第3号発行

学生記者が上田埼玉県知事を訪問
人・自転車・車の共存を目指して

2012年10月29日(月)、本学学生が制作する地域向けフリーペーパー『ナチュライフ十文字』の大嶋理恵記者(コミュニケーション学科3年)、吉田末希記者(メディアコミュニケーション学科2年)、村田萌記者(同学科1年)、オウヤク記者(北京語言大学交換留学生)が埼玉県庁を訪れ、上田清司知事に、自転車保有率全国1位の埼玉県ならではの自転車活用法と、自転車事故の防止対策についてインタビューした。

上田知事は、「埼玉県は東側の3分の2が平地になっていてとても自転車の走りやすい地形なので、自転車に乗る人が多いのです」と埼玉のなだらかな地形を生かした自転車の楽しみ方を語った。

一方、気軽に利用できる乗り物だからこそ「自転車も車両だということを、しっかりと教育していかなければいけません」と自転車を使用する側のマナー向上も訴えた。また、安心して走行できるよう、埼玉県内に自転車専用道路を設けることを知事自らイラストを描きながら説明してくれた。



文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択

本学の実績が国から評価
リメディアル教育に弾み

文部科学省が進める平成24年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」。その一環として、全国の大学がアイデアと意欲を競う「主体的な学びへの転換を図り、学生の学修効果を最大限発揮するための効果的な教育を行うための環境を整備する取組」に、本学の申請が採択された。プラン名は「リメディアルとラーニング commons の協働による自主学修環境構築」。学力水準の向上に効果的なアクティブラーニング型授業による展開を、自主性、学ぶ力の涵養を中心に行う構想に対し、実現性、継続性が期待できると、高く評価された結果だ。

「自主学修環境構築プロジェクト」が立ち上がる平成25年4月からは、現在のCALL教室がアクティブラーニング学習室として生まれ変わる。iPadを54台導入し、1人1台使えるようにするなど、設備の充実が図られることが決



現在のCALL教室。アクティブラーニング教室に生まれ変わる。

まった。①自修のための環境整備 ②無線LANに対応したノートパソコンとiPadの使い分け ③アクティブラーニング型授業を本格実施する上での教員の意識改革やFDなどが検証と改善のポイントとなる。

(取材・文／吉田末希記者)

編集後記

どう取材し、どうまとめたらいのか——私たち学生記者はこの命題と1年間格闘し、今、「第40記念号」を手に胸にこみ上げるものがあります。たばこの危険特集、伊達家当主や好本先生の講演会、桐華祭特集はいかがでしたか。ど

んな小さな記事も私たちの想いが詰まっています。周囲に気を配る難しさや達成感、社会に出る心構えを与えてくれました。取材にに応じていただいた皆様にあらためて感謝いたします。(編集長:岸真裕美)

*「新座キャンパスだより」へのご意見・ご要望は、kohoka@jumonji-u.ac.jpまで。

表紙の写真

上・下左: 学園創立90周年記念公開講座・保護者会 in 川越 下中央: 桐華賞表彰式 下右: イモプロの「タルト」学内販売





- ① 保護者の会場。笑いの絶えない和やかなムード。
 ② 挨拶する十文字一夫理事長。
 ③ 武蔵野会会長らとともに。
 ④ 横須賀学長の話に耳を傾ける保護者の皆さん。
 ⑤ 講演する好本恵氏。アナウンサー時代のエピソードなども。



講師プロフィール

好本恵 (Yoshimoto Megumi) © 1976年に東京女子大学を卒業し、NHKアナウンス室に入局。『スタジオ 102』『おはよう広場』などを担当。1981年にフリーに転身。アメリカ・コーネル大学で日本語教育法を学ぶ。帰国後、『すくすく赤ちゃん』『NHK 俳壇』などを担当。現在医療・健康・教育・暮らしなどをテーマに多くのシンポジウムのコーディネーターを務める。著書に『話しことばの花束』(リヨン社)など。



地域との絆を深く広く



学園創立90周年記念

公開講座・保護者会

地域と大学、保護者がより一層強い関係を築くため、

十文字学園女子大学は、2012年12月1日(土)、

川越まつりの余韻が残る小江戸・川越市の川越プリンスホテルで

「学園創立90周年記念公開講座・保護者会 in 川越」を開催しました。

総勢200名が参加する
大規模イベントに

保護者と大学教職員が一堂に会し、教育面や大学の課題について意見交換する機会は、これまでおもに大学内で持たれてきた。しかし、今回は新たな試みとして大学側が地域へ出向くかたちで実施。あわせて、元NHKアナウンサーの好本恵氏を招いて公開講座も開催した。会場となった川越プリンスホテルでは本学の社会交流・研究支援部・学生支援部を中心に教職員が総出で川越の市民や保護者を迎え、参加者200名の地域展開型イベントとなった。

Report
保護者会

活発な意見交換が実現
歓談ではいくつもの輪が

保護者会では、十文字一夫理事長が、川越周辺にお住まいの保護者の方々44名を前に「この機会に大学に対するご要望や学生の就職についてのご相談など、教職員に十分なさつていただければありがたいです」と挨拶。続いて横須賀学長が、「本学はさらに地域との結びつきを強くしていきたい」とし、地域と連携した学生のさらなる能力開発やリメディアル教育への取り組みを説明した。

学科ごとにテーブルを設けた立食形式の懇談では、保護者からのさまざまな質問に各学科の教職員が丁寧に答える輪がいくつもでき、保護者の肉声に大学側が答えられたことも多かった。桐華祭でちゃんこ鍋を販売する模擬店を出店し、その売上げを学生のために寄付した保護者の会「武蔵野会」の目下美佐子会長は、「大変栄えている川越で開催された大学のイベントに、多くの皆さんが集まっていた良かったです。保護者会の前に行われた好本先生の講演を、学生にも聞かせたかった」と盛会に拍手を送った。

好本恵本学特任教授が講演会

——ことばの花束をあなたに——

Report
公開講座

元NHKアナウンサーが語る
言葉の大切さ

保護者会に先立ち、元NHKアナウンサーで本学特任教授の好本恵先生が「ことばの花束をあなたに」をテーマに講演した。満員となった会場で映像を使い、NHK時代の体験などを交えながら、辛いときに自分を励ましてくれる言葉の大切さなどについて語りかけた。

講演から抜粋

辛いときに励ましてくれるだけでなく、判断に困ったときに自分の背中を押してくれるのが「ことばの花束」です。ピアリストの辻井伸行さんはピアノの先生から「器の大きなピアリストになれ」と言われ、また、歌手のアンジェラ・アキさんは上司に「Take a chance on you」(自分に賭けてみなさい)と言われ、それぞれ前へ進みました。

人間の究極の幸福は何か、というアンケートに対して、「人に必要とされること」という回答を書いてくれた学生がいました。人の役に立っていることで私たちはいくつになっても生き生きと暮らせます。

「……世の中に立ちてかひある人と生きなむ」の学園歌は、私たちへのすばらしい「ことばの花束」です。明治生まれの女性創立者が社会貢献の思いを学園歌に込めたことに、感動します。コミュニケーションの極意のひとつは、相手の時間に自分を合わせられること、相手をも思つて声を発する余裕ではないでしょうか。

学内で初めて
記者会見を実施
新企画も目白押し

桐華祭をひかえた10月19日（金）、本学初の試みとして、学内向けに西澤重実実行委員長と廣野由香里副委員長による記者会見が行われた。西澤さんは、新企画であるオープニングセレモニーでのファッションショーについて発表し、その盛り上がりや桐華祭の最後まで持続させる意気込みを語った。実行委員長らが記者会見で見たこの意欲は大きな成果を生み出した。

初日のオープニングセレモニーでは西澤実行委員長の挨拶の後、毎年恒例である舞台演劇やダンス団体の紹介などが行われた。学園の伝統の上に新たな風を送り込んだのは、この日のために練習を積んできた、学生による多彩なパフォーマンスだろう。実行委員長が記者会見で発表したファッションショーも盛大に開催された。参加団体のメンバーが、さまざまな衣装を着てメインホール前の階段を下りてくる。それぞれアピールタイムが設けられており、部活動の魅力や模擬店の内容などについて思い思いの方法で紹介。笑い声が絶えない楽しい雰囲気の中、セレモニーの最後には委員長のかけ声に続き一斉にクラッカーが鳴らされた。



記者の質問に答える西澤重実実行委員長(右)と廣野由香里副委員長。

「ファッションショーは初めての企画。誰がどのように立ち上げるか、一から決めるのは大変でした(西澤さん)」「そうそう、メールのやり取りも山ほど……(廣野さん)」と牽引役の2人は苦勞を振り返る。

実行委員の心配りは、教室展示や模擬店といった桐華祭の隅々まで行き届いた。

来場者からは、「十文字学園には食物栄養学科があるので模擬店で出されるごはんやスイーツが美味しい」「幼児教育や児童教育学科の学生が趣向を凝らした出し物は、子どもたちも楽しめる」という声もあがり、本学ならではの特色が発揮された学園祭となった。

(取材文／西牟田美紅・棚山翔子記者)

color

桐華祭を
自分色に
染め上げろ!

第46回

桐華祭

一人一人が個性を光らせた2日間

10月27日(土)・28日(日)に行われた第46回桐華祭では100団体以上が日頃の成果を存分に発表し、入場者は延べ約7000人を数えました。

テーマは「color」桐華祭を自分色に染め上げろ!。趣向を凝らしたキャンパスの装飾やパフォーマンスに学生一人一人が「自分色」の大切さを再認識しました。



pick up 学生の活躍

学生ダンスユニットによる
パフォーマンス
5組の個性輝くダンス発表

メインアリーナでは、5組のユニットがダンスパフォーマンスを披露。黒い帽子を効果的に使ったクールなダンス、カラフルな衣装に身を包んだメンバーが椅子に立ったり座ったりしながら踊るポップなダンス、アップテンポの曲に合わせたセクシーなダンスなど、個性が光るショーが続き、観客を圧倒した。

(取材文／福島茉莉記者)



フィットサル部 模擬店
おさるのウキウキじゃがバター

協力し合い連日の完売

フィットサル部が販売したほくほくのじゃがバター。初日は天気も良く、終了時間を待たずして完売。しかし、2日目はあいにくの雨模様。火がつかないなどのハプニングがあったものの、たくさんのお客さんが店先に並び、1日目に引き続き完売した。大量のじゃがいもを洗って井をとり、ハプニングを乗り越えながら笑顔で商品を販売した

2日間。皆で協力してやり遂げる達成感は大きく、とてもいい経験になったことだろう。(取材文／棚山翔子記者)



桐華賞

2012年度 すぐれた取り組みを讃え8団体を表彰!

学長賞	文化展部門	華道部(生けたお花の展示)
	飲食店部門	食米みちこのにんじん洋菓子店(人参を使用した洋菓子)
埼玉県芸術文化祭 実行委員会会長賞		名倉庵(カステラ、おこわ)
		おなかすいたっていいなさいよ2(パスタ)
		美術部(作品の展示、キーホルダー、ポストカードの販売)
奨励賞		ペンネ アラビアータ(蒸しパン、ペンネアラビアータ)
		声優部(部員たちによるアニメーションの生アフレコ)
		ダンス部(ダンス)

桐華祭講演会レポート

伊達家当主が語る
戦国武将の素顔

藩祖・政宗公の英知、温もりに触れた――

第46回桐華祭初日の10月27日、仙台伊達家18代当主・伊達泰宗氏の講演会「伊達家当主が語る戦国武将の素顔」が本学9417教室で開かれた。自らも仙台で東日本大震災の復興に携わっている泰宗氏は、藩祖政宗公による四百年前の慶長三陸大津波からの復興の歴史をひもとき、先人の志に学びながら、「伊達なり」の精神で、

被災地の人たちとともに未来のために今を生きる自らの心境を吐露した。

第2部では、歴史小説作家・山名美和子氏とのトークで、伊達公にまつわる秘話などが紹介され、会場を埋めた市民、学生ら二百人は、歴史が現代に語りかける意味の重さを心に刻んだ。

第一部

伊達家18代当主・伊達泰宗氏
講演会要旨

「伊達なり」精神で大震災に勝つ

仙台は復興元年

仙台が開府されたのは今から411年前の慶長5年12月24日のことです。毎年この日、私は青葉山に登り仙台藩祖伊達政宗公騎馬像の前で日の出を待ちます。昨年の景色はこれまでとは全く異なるものでした。沿岸の町並みと広大な田畑は東日本大震災後の津波により土色の何も無い景色に変わって

いました。震災後に発生した大津波は多くのものを奪い去ってしまいました。震災発生から1年7か月。仙台は今、復興元年の想いを全国に発信しています。

発掘調査の感動

東京在住の私が仙台に移るきっかけとなったのは、昭和20年7月10日の仙台大空襲で焼失した政宗公霊廟瑞鳳殿の再建に伴う昭和49年10月の発掘調査でした。地表から1メートル掘った所で墓室の蓋石が現れました。慎重に蓋石が開けられると、中からは糸巻太刀、具足などの武具を始め政宗公愛用の文具類を取り出されました。政宗公のご遺骨が取り出された時の驚きと感動は生涯忘れません。遺族として立ち会った発掘調査、当時私は15歳で

支倉使節団への思い

りました。籠城した敵将に対し、政宗公は躊躇することなく総攻め、城内の者全てを撫で斬りにするよう命じました。「残酷な先祖を持つて、子孫である監修者は何も感じないのか」という内容でした。しかし、この戦で政宗公が総攻めを躊躇していれば、背後から新たな敵の攻撃を受け、伊達軍勢は総崩れとなり、我が家の歴史はそこで潰えていたかもしれません。この時、冷徹な決断を下し、戦に勝利したからこそ、周辺の大名は政宗公を恐れおののき、「独眼竜」の名を轟かせ、後の仙台藩祖伊達政宗公が誕生するのです。もしも、政宗公が武運一つでなく討ち死にしていたら、東北の地は、豊臣秀吉か徳川家康に支配されていたかもしれません。

401年前、仙台領の沿岸部を高き20メートルの慶長三陸大津波が襲いました。政宗公は、家臣、領民と共に被災地の復興に尽力しました。そしてこの地を米の一大生産地へと改良しました。ここから収穫された余剰米は藩が買い取り、江戸で販売。農業は産業へと展開し、伊達62万石は経済的にも発展していきました。

キリシタンを擁護し世界にも目を開いていた政宗公は、藩独自で大型洋式外洋船サンファン・パウチスタ号を建造します。そして家臣支倉常長を大使として使節団をスペイン王、ローマ法王のもとに送りました。ところが、出航直後に家康は突如キリシタン弾圧を始めます。このことにより政宗公の親書の真意が疑われ、このミッションは失敗に終わりました。家康の動向如何では、御家取り潰しのリスクを冒してまで、政宗公が慶長遣欧使節を断行した理由は、仙台を基点とする世界最初の環太平洋航路就航の実現を

とした雄大な計画は、家臣、領民に大きな夢と希望を与えたことでしょう。「流血なき最後の決戦」その勝敗の行方は未来の人々に託そうではないか、我々は困難を乗り越え、今を生きた証を残そう――私には、政宗公の熱き心の言葉が聞こえてくるのです。

東日本大震災からの復興には、まだまだ時間がかかります。しかし、心を切り返してこの困難を訓練として受け止め、訓練から多くを謙虚に学び、歴代当主がその責務を果たすために奮闘されたその志を我が心の支えとし、子孫として「伊達なり」の精神を次代に紡いでいくことが先人が築いてくれた郷土の復興の為にいささかも寄与できるならば子孫として、なにより喜びでございます。

流血なき最後の決戦

昭和49年の瑞鳳殿発掘調査の際、副葬品の中に黄金の口ザリオが含まれていました。これは当時のカトリック信者が胸に付けていたブローチである事がわかりました。織田信長に始まり豊臣秀吉、そして徳川家康へと続く戦国時代。中央の天下取りレースからは20年遅れて生まれてきた最後の戦国武将伊達政宗。「天下など取れぬなら取らずともよし」。伊達の黒船は、世界を土俵として、独眼竜政宗が將軍家康に挑んだ「流血なき最後の決戦」ではなかったのか、このブローチはその証ではなかったのかと思えてくるのです。

驚くべきことは、このミッションは慶長三陸大津波からわずか2年後に実施されたことです。復興の最中、政宗公の世界を舞台

第二部
歴史は生きる励み伊達泰宗氏×山名美和子氏
トークセッション要旨

山名氏 泰宗氏のお話から、様々な人たちの生きた血、生きた思いが長い歴史の中に流れ、今に繋がっていることの大切さに改めて思いを深くしました。それは、きつと私たちがこれから生きていくことの励みとなることでしょう。伊達家のルーツをお話ください。

泰宗氏 鎌倉御家人として八百年前、源頼朝の命により現在の福島県伊達市を拝領したことで、氏を伊達としました。東日本大震災では、政宗公以前の墓も被害を受けました。福島第一原発事故の影響もあり、管理も難しい状況にあります。

山名氏 伊達家の家紋についてはいかがですか。

泰宗氏 「竹に雀」の家紋は、政宗公の祖父の代から定紋となりました。雀は日本人の主食である米を餌とする鳥です。豊かで平和な国を象徴する鳥でもあるのです。

山名氏 政宗公の数多いお手紙の中で、泰宗氏の心に残っている文面はありますか。

泰宗氏 政宗公の側近に片倉小十郎という者がいました。政宗公と正室との間に子供がなかなか誕生せず、小十郎のところに先に子供が誕生しました。

主君よりも先に家臣である自分に子供が誕生したことを遠慮した小十郎は「自分の子供を殺す」と言い出したのです。政宗公は驚き「命を粗末にしてはいけません。小十郎の子供は必ず伊達家のために役立つはずだ」と手紙を出しました。

山名氏 政宗公のお人柄が偲ばれますね。

泰宗氏 2代目片倉小十郎は、大坂の陣で真田幸村と戦った人物です。政宗公の知られざる一面を表す手紙と思います。

山名氏 私は歴史小説作家という仕事上、「歴史」と呼ばれる歴史好きの女性に会うことが多いのですが、伊達政宗の



ヘビースモーカー返上！
空気も食べ物もおいしい

大石聡国際交流支援部長



ヘビースモーカーとして本学で1、2を争うほどだった、国際交流支援部長の大石聡さん。彼は2012年10月1日を境にきっぱりとたばこ縁を切った。

早稲田大学学生時代に興味本位で吸ったことをきっかけに、はや40年。1日1箱のペースで、これまでに吸った本数は計り知れない。現在、禁煙を始めて5カ月。「空気も、食べ物も、おいしい」と語る。一時の我慢を経て、今は実に爽快な気分なのだ。

大石さんが体調を気にしながらたばこを吸っていたころ、あらゆる場所でたばこの害を説いていた禁煙運動の旗手、齋藤麗子先生の熱意が大石さんの背中を押した。もちろん、禁煙を始めたころは苦しみがともない、医者から禁煙治療を勧められたこともあったが、大石さんは一人で踏ん張った。「自分自身の気合いと周りの人の支えて禁煙を続けている」という。

喫煙は、自分の体を自分自身で傷つける行為だといってよい。「一般的に、女性は男性に比べてたばこから受ける影響が大きいものです。自分の体を大事にしてほしい。何よりも、病気にかかり

身近な家族や友だちに悲しい思いをさせないためにも、禁煙を心掛けてほしいですね」。大石さんに続く禁煙成功者が一人でも多く誕生することを願う。



取材後記

学生記者のつぶやき

西牟田

今回の取材を通して、あらためてたばこはよくないって思ったよね。日本はたばこの害に対する認識が海外に比べて低いということをもっとみんなに知ってもらいたい。

渡部

そうだね。「肺の病気を治す薬がない」って知ったときは怖かった。

西牟田

それに将来、妊娠したときのことを考えると、元気な子どもが生まれてほしいと思うもん。軽い気持ちで吸い始めると、中毒性があってくせになるから、禁煙するのが大変なんだよね。

渡部

今、吸っていない人は、「これからも吸わない」という強い気持ちを大切にしてほしいな。

人生の喜びを壊す
たばこの恐ろしさ

女性喫煙者の増加についてどのようにお考えですか？

煙の出ないもの、よい香りがするもの、細くて持ったときに指が映えるもの、おまけがついているもの。すべて女性の喫

たばこを吸うシーンにはモザイクがかかっている国まであります。自動販売機がない国も多いですよ。

煙者を増やすのが狙いです。男性の喫煙率が下がっているから、新しい消費者層として女性をターゲットにしているのだけれど、若い女性が喫煙し続けると、その害を受けた未熟児や障がい児が生まれる責任を考えてないわよね。
たばこは美容にも悪いですよ。シミ、シワ、黒ずみ、歯ヤニ、口臭などで、10歳くらい老けて見える人もいます。今、たばこを吸っている人は20年先を想像してみてください。肺が壊れて坂道や階段ですぐに苦しくなるし、肺がんの可能性も高まる。慢性閉塞性肺疾患になつて

長く苦しむ人も。それに、味覚や嗅覚が鈍ってしまう。喫煙者には、人生のさまざまな喜びが壊れるということに早く気づいてほしいです。
本学周辺の恵山通りにも吸い殻がたくさん落ちていっているんだ。
JR新座駅が禁煙なので、みなさん少し離れたところで吸うのかもしれないね。3年前は学内にも喫煙所がありました。3年前は学内にも喫煙所がありました。内は禁煙になりました。
喫煙者は就職も不利になるようですね。衣類からたばこの臭いがしたら面接

官は不合格にしたいわよ。喫煙者は体調を崩す可能性が高いし、この頃は喫煙IIサボリだと見られる傾向にあります。
本学の学生にメッセージをお願いします。
とにかく、たばこを吸わないでほしいです。将来の家庭人であり、職業人であるみなさんに、健康でいてほしい。受動喫煙についてもしっかりと考えて。幸せを望むなら、自分の伴侶を選ぶときも、その人が喫煙するかどうかが大事なポイントとなるでしょう。本学では引き続き、学生の健康管理の側面から禁煙と、受動喫煙の問題に取り組んでいきます。

「学生記者特報班」発

本学産業医 齋藤麗子先生インタビュー

たばこの危険性と
子どもを産む
女性としての責任

たばこは身体によくはない。特に、子どもを産み育てる女性にとっては——。30年間、医者、保健所長、教員として、国内外で禁煙キャンペーンを進めてきた本学の産業医・齋藤麗子教授に、禁煙の重要性について話を聞きました。

取材・文／棚山翔子、西牟田美紅、廣瀬咲希、吉田未希、渡辺沙紀、渡部美香、オウセイイ



常に携帯している禁煙プレートを手を持ち、「いつでもサッと取り出して、マイ禁煙席を作っているの」と話す齋藤麗子先生。



世界各国で販売されているたばこ。

活動のきっかけは
赤ちゃんの胃洗浄

禁煙活動を始めたきっかけを教えてください。

30年以上前になります。小児科臨床医時代、たばこを食べてしまい救急外来に運ばれた子どもの胃をよく洗浄したのですよ。子どもの手の届くところに危険なたばこを置いていたこともいけない。どうして命の危険にかかわるたばこには、洗剤のように使用上の注意書きがないのか疑問を抱き、禁煙活動を始めたわけです。

日本は子どものたばこの誤飲事故がアメリカの30倍。それは、量の生活であることも原因のひとつです。また、喘息の子どもの親には、たばこを吸っている人が多いの。「喘息を治すには、子どもの前でたばこを吸わないで」と言いたい。中耳炎も同じです。こうした啓発が大事だと思い、私は独自の調査結果を雑誌や新聞で発表し続けてきたのです。
東京都で区の保健所長をなさったとお聞きしました。

26年間、区民の健康を預かる立場にいました。禁煙を促すビデオを作ったり、禁煙教室を開講したり。1992年に、医師・歯科医師の禁煙団体を立ち上げました。でも、今から20年前は、医者の世界ですら禁煙の話をすると変な目で見られたのよ。昔は病院内も禁煙ではなかったし。「そんなのおかしい」って言

い続けて、やっと改善されました。健康増進法という法律のおかげもあり、街中でも灰皿が減ってきているでしょう。しかし現在でも、日本の状況は海外から遅れをとっています。日本人ってたばこの煙が嫌でも言葉にしないで我慢するから、みんなの意識が今ひとつ変わらないのです。

最近、力を入れている活動は何ですか？

子どもを守る活動が中心。例えば1年かけてある区内の児童公園の灰皿を全部撤去させました。さらに怖ろしいのは、最近、喫煙所に子どもを連れて入る親がいること。でも、日本の法律ではそれを禁じることができない。ですから私は、小児科学会に働きかけて、「喫煙室に子どもは入ってはいけない」という法律をつくる提案をしています。それから、地域の禁煙研修会の講師をしたり、中学1年生を対象に、将来たばこを吸わないための講演をしたり。

海外のたばこは1000円以上と高価。パッケージも日本に比べてたばこの害をストレートに伝えています。

たばこのパッケージがかわいなのは日本だけね。警告写真入りのリアルなパッケージを採用したのは、カナダが最初です。今は、オーストラリア、ニュージーランド、中国、タイでも採用しています。この赤ちゃんの写真(左)を使っているのはシンガポールです。海外では教育上、テレビドラマなどで



2012年さつまいもプロジェクト活動報告

新座産の野菜が東北への義援金に

キャンパスを飛び出して人とかかわりながら、社会性を磨き、自分のあり様を考える。そんな学びのスタイルもあるはずだ。そうして、さつまいもを通じた社会貢献活動「さつまいもプロジェクト」もプロは始まった。

活動のきっかけは、新座市の新しい特産品を目指す芋焼酎「指月鳴」。本学へ、その材料となるさつまいもの栽培と収穫の協力依頼があり、児童教育学科1年生がボランティアとしてさつまいもを収穫。そのうち300kgが本学に提供されたため、これをお菓子にしてイベントで販売し、東北への義援金とするプロジェクトへと発展した。今年度は共通科目「十文字学の「新座から学ぶ」を履修した学生が活動の中心となった。

食物栄養学科の先生方に協力いただき開

2012年活動実績	
6月21日	苗植え(児童教育学科1年生)
7月25日	草取り・弦返し(児童教育学科1年生)
10月24日	収穫(児童教育学科1年生)
11月11日	収穫祭で販売
11月24日・25日・12月2日	オープンカフェで販売
12月15日	JRとの協賛で行っている「駅からハイキング」で販売
12月21日	学内にて販売



平林寺の老師様がいもプロの学生に贈ってくださった言葉「喫茶去」。禅の言葉で「どうぞお茶でも召し上がれ」の意味。

発したお菓子「スノーボール」「サツマイモのタルト」は、さまざまなイベントで販売し、すべて完売。販売時は道行く人に声をかけ、趣旨を説明し、やっと1つが売れていくといった状況だったが、学生の努力、そして平林寺の松竹寛山老師をはじめ学内外からの応援のおかげで、20万円あまりの義援金が集まった。多くの方の思いをどうカタチにするかを考え、現在、学生たちはいもプロを通じた最後の学修に取り組んでいる。

ケーキを食べながら、活発な意見交換

学長・教員・学生の有意義なコミュニケーション

2012年11月27日(火)に学長や教員、各学科の代表者2名がカフェテリアに集まり、「授業アンケートに関する学生との交流会(ケーキミートイック)」を開催。教員も交えて参加者は5つの班に分かれ、ケーキを食べながら「授業アンケートとそれに対する教員の回答」「学生生活で感じていること」について話し合った。

「アンケートの時期をずらすべき」「授業中の私語に関して学生がティーチングアシスタントをし、注意し合うというのではない」「授業アンケートで出た意見に教員が答えてくれることがうれしい」「学内にATMや大きなロッカーがほしい」など、各



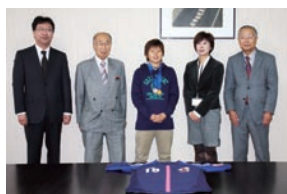
班からさまざまな意見が出た。また、「履修したい授業が多数重なるという」という学生のコメントに対して、教員側からは「すでに話し合いが持たれていて、改善に向けて検討している」という回答があった。(取材文／岸真裕美編集長)

横山久美選手が理事長、学長に報告

本学で語ったヤングなでしこの決意

「FIFA U-20女子ワールドカップ」が2012年、初めて日本で開催された。日本は3位決定戦で勝利し、初のメダルを獲得。フェアプレー賞も受賞した。出場メンバーである本学特待生の横山久美選手が、2つのメダルとユニフォームを持ち、十文字二夫理事長、横須賀薫学長に結果を報告した。

横山選手は現在、岡山湯郷Beeに所属し、日々サッカーの技術を磨いている。まだ自分自身の実力に満足しておらず、常に上を目指して練習している様子がうかがえた。また、なでしこジャパンの新編成については、「選手に選んでもらうには自分の



(取材文／竹内唯奈記者)

ゾウキリンくらぶの観光復興プロジェクト

福島でパワーと出逢いを創出!

地域連携ボランティアサークル「ゾウキリンくらぶ」は今年度、経済産業省から支援を受けて福島観光復興プロジェクトに取り組んでいる。

プロジェクトには本学学生のほか、福島大学、跡見学園女子大学、文京学院大学、東京理科大学、電気通信大学など、12大学の学生が参加している。9月に福島で合宿を行い、被災者の現状を知るとともに、大学生の視点で福島県内の19の観光地を掲載した特製マップを作成した。「ばわスポ&逢いスポMap」という名称には、「訪れた人がハッピーな気持ちになり、新たな活力をもらえる場所として新しい出逢いに心がときめく場所」という意味がこめられている。

昨年の10月から12月にかけて、学園祭や新座市オープンカフェ、有楽町駅前福島支援イベント(東京都行政書士会主催)などでランキング投票を実施した。約700名の参加があり、福島への温かい応援メッセージも沢山いただいた。ランキングはウェブサイトで、十文字学園女子大学のトップページ(右下)からランキングページにアクセスできるように



プロジェクトに参加した12大学の学生と福島でワークショップを行った。



なつこ(https://www.jumonji-u.ac.jp/zoukirin/)。ウェブサイトで投票数はすでに600を超え、2013年1月現在、1位は推定樹齢1000年のベニシダレザクラ「三春滝桜」であるが、「浄土松公園」のこ岩」と「五色沼」がともに2位で肉薄している。観光地の説明だけでなく、画像も大きく映し出されるのでぜひ一度ご覧になって、お気に入りの福島を訪れてほしい。(教授 星野敦子記)

俳句を通じて広がる異文化交流

留学生による瑞々しい表現が多数

現在、約50カ国で日本の俳句をルーツとした短詩型文学「国際ハイク」が創作されており、俳句は世界的なものとなりつつある。本学の留学生別科でも留学生が授業で日本語の現代俳句創作に挑戦した。どれ

朝の空 見つめる先に 雪が舞う 詩蓮(中国上海)
元旦に 面影みだし 北京の君 雪玉(中国北京)
冬の朝 家事で働く 祖母の身よ 浄植(中国北京)
初雪は 初恋の色 しろく澄み ライ(中国山東省)
除夜の鐘 煩悩のぞき 抹茶のむ 放芳(中国浙江省)
新座で 新年 国の両親 思い出す 穀琳(中国安徽省)
焚き火 からは ぼんやり 浮かぶ 切ない夢 有庭(韓国利川)

も瑞々しいよい作品だ(東聖子先生指導)。本学では、俳句に関する科目が充実している。非常勤講師で俳人でもあるフランス人のマブソン・ローラン先生は、授業で日本人学生に俳句創作の指導を行っている。また、幼児教育学科では上垣内伸子先生がフォト俳句の授業を、表現文化学科では東聖子先生が俳句入門の授業を実施。日本人学生が外国語を使った国際ハイク創作に挑むなど、俳句を通じた異文化理解の機会も豊富だ。グローバル化のなかの短詩型文学の可能性には興味深いものがある。

授業「表現活動」で学ぶ「心と体の開放」

介護施設で3曲を披露し、歌の意味を表現

児童教育学科の授業「表現活動」では「心と体の開放」に重点を置き、心を拓いて人と接するための表現活動と指導方法を学んでいる。具体的には、詩や歌の背景を想像してそれを表現することで心を拓き、誰とも楽しく交流する方法を学ぶ授業だ。

2012年度後期の授業では、横須賀学長が作詞した「かたくりの花」という作品で、「心と体の開放」の実践に努めた。そして12月21日(金)、介護老人保健施設新座園で発表を行った。当日はクリスマスの時期ということもあり、「きよしこの夜」「もみの木」の2曲と「かたくりの花」を発

表。緊張したが、施設のみなさんは真剣に聴いてくださり、私たちの歌に涙する方もいた。

合唱を通し、心を拓いて言葉の意味や想いを伝えることの難しさ、伝わったときの喜びを知る貴重な機会となった。

(文／児童教育学科2年君嶋志保美)



第14回図書館総合展に参加

ライブラリーサポーターが活躍

2012年11月20日(火)～22日(木)にパシフィコ横浜で開催された「第14回図書館総合展」のパネルセッションに、本学のライブラリーサポーターの学生メンバーが参加した。展示のテーマは「図書館・つくる・学ぶ」ライブラリーサポーターによる図書館づくりを通して学びの場の形成。21世紀教育創生部(司書課程)の石川敬史専任講師指導のもと、昨年度から始まったライブラリーサポーターの活動をポスターにまとめ、5分間のプレゼンテーションも行った。79団体が参加し、本学は残念ながら入賞できなかったが、よい経験となった。



※ポスターは現在図書館で展示しています。

表現文化大賞の作品を公募

第3回のテーマは「未来」

本学短期大学部では、2013年度に「表現文化学科」が2年目を迎える。今年行われる第3回「表現文化大賞」の公募は、3月から5月まで受け付ける。課題は、「未来」をテーマとした複数のジャンルの創作である。詳しくは2月に短期大学部のホームページに掲載予定。埼玉から世界へ向けて若々しい表現を発信することを目指している。ふるつて応募いただきたい。

短期大学部 第3回表現文化大賞 公募要項	
部 門	「未来」をテーマに詩・俳句・短歌・書道・イラスト・写真などを創作
公募期間	2013年3月1日～5月末日
対 象	全国の高校生・本学大学生・短大生・本学全卒業生
応募先	短期大学部研究室

小出秀文私大協事務局長が講演

教職員が私学をとりまく課題を学ぶ

2012年9月13日(木)「大学問題研究会」が開かれ、本学教職員約200名を前に、小出秀文日本私立大学協会事務局長が「私学振興上の諸情勢と当面する重要課題」東日本大震災を超えて、高等教育政策のパラダイムシフトをめざして」をテーマに講演した。

私立学校の振興過程と特性、また建学の精神を具現化した教育理念など、時代の背景を踏まえながら私学の重要性を説明。さらに、高等教育機関の諸課題、中央教育審議会や国家戦略会議の審議動向、私学関係府予算要求と学校法人税制改正を巡る動向など多岐にわたる課題を詳細に解説した。



教員免許状更新講習のお知らせ

平成25年は8月に実施予定

教員免許更新制は、教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで、必要な資質能力を保持し、社会の尊敬と信頼を得られるよう、平成21年4月に導入された。本学でも平成21年度から毎年講習を実施し、4年間で167名の卒業生が受講した。平成25年度の予定は、必修講習が8月1日(木)・2日(金)の2日間、選択講習が8月6日(火)・7日(水)・8日(木)の3日間。受講対象者内容などの詳細は3月以降本学のホームページまたは募集要項でご確認願いたい。

※日程等の予定は変更になる場合あり。

<お問い合わせ>
学生支援部・教職支援課
E-mail:kyosyoku@jumonji-u.ac.jp
TEL:048-477-0579(直通)

大地震を想定し避難訓練を実施

訓練の積み重ねで防災意識を向上

2012年11月8日(木)に避難訓練を実施した。本学では年に2回訓練をしており、今回は授業中に大地震が発生したことを想定。学内各所から教員の誘導により避難を行った。また、避難経路、放送設備などについても検証し、改善点を確認した。

実施後は、携帯電話を利用した安否確認システムを試験運用し、学生および教職員から訓練に対する意見を募った。学生からは「大学生だからこそ訓練の必要性や大切さを個々で考えて参加するべき」といったコメントが寄せられた。



人間福祉学科 同窓の集いを開催

人間福祉学科では2012年12月15日(土)、学内フジショップで卒業生を対象にした福祉を学ぶ同窓の集いを開催。卒業して数年、卒業生はそれぞれ福祉の現場で活躍している。同学科・大山博幸先生のミニ講演「福祉職の生涯学習」の後、同窓生はお互いの近況について、画用紙にクレヨンで描いて報告し合い、和やかな時間を過ごした。



地域プロジェクトが 埼玉県で優秀賞

人間生活学部 角田真一教授、短期大学部の古松彌生名誉教授が牽引している、少子高齢・人口減少社会生活研究所と地域住民の共同プロジェクトのひとつ、「おばあちゃんのパソコン教室このゆびとまれ」が、埼玉県コミュニティ協議会審査会で、平成24年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」優秀賞を受賞した。2012年11月、県民の日記念式典で表彰された。



美活と＋１を促進 もこやんと節電

今冬は数値目標を伴わない節電要請となったが、本学では年間を通して、教育研究活動に支障のない範囲で節電に努めている。構内には省エネ推進オリジナルキャラクター「もこやん」のポスターを掲示。階段を使って運動と節電を促す「美活」、衣類を1枚増やす「＋１」など、少しの工夫でできる節電への協力を呼びかけている。



増澤拓也助手が 優秀論文奨励賞

人間生活学部人間発達心理学科の増澤拓也助手は、2011年度スポーツ心理学研究に掲載された論文(題目:マウンテンバイクのコーナリング技能習得における路面反力の感覚制御統合訓練)が評価され、優秀論文奨励賞を受賞。昨年開催された日本スポーツ心理学会第39回大会において表彰され、本論文に関する学会賞記念講演を行った。



平成25年度 祝・同窓会創立45周年を迎えて

若桐会会長 濱口恵子

感謝をこめて 記念総会のお知らせ

同窓会「若桐会」は昭和44年に創立しました。平成25年度には創立45周年を迎えます。これを祝い、卒業生の皆様と恩師、教職員が集まり、総会ならびに懇親会を催します。

「若桐会」の歴史は昭和44年、当時、十文字学園女子短期大学、家政科および幼児教育科から第1期生が卒業し、初めての同窓会総会が開催されたときに始まりまし。時を経て昭和50年、学科の特色を生かした部会が発足。学園の発展とともに現在12部会があり、平成22・23年には部会創立35周年記念行事も行われました。

これもひとえに卒業生をはじめ、在学生や教職員の方々など十文字学園にかかわる皆

記

「十文字学園同窓会」「若桐会」創立45周年記念総会・懇親会のご案内

日時：平成25年6月2日(日)

12時～14時

会場：ザプリンスパークタワー東京

(東京都港区芝公園4-8-1)

会費：5000円

(当日受付にてお納めください)

※若桐会総会・懇親会の詳細については、次号(4月発行予定)新座キャンパスだよりにご案内、出席はがきを同封いたします。



還暦を迎えた卒業生を囲んで。

食物栄養学科の卒業生と。



チャンスはまだまだこれから！

3月に
出願できる入試は
次の通りです

◎平成25年度 入試日程

AO入試

対話型・有資格者型AO入試

学部	学科	エントリー期間（郵送必着）	面談日	選考内容
人間生活学部	人間福祉学科	Ⅴ期 2月8日(金)～3月15日(金)	エントリー受付後 相談の上、 日程を決定	エントリーシート 面談* レポート(有資格者型は免除)
	生活情報学科			
	メディアコミュニケーション学科			
短期大学部	表現文化学科			

★面談では、希望学科の教育内容や特色・資格などについての理解を確認します。また、志望理由や将来の希望などを確認します。
みなさんの考えを、面談を通じて伝えてください。話し上手である必要はありません。

課題型AO入試

学部	学科	エントリー期間（郵送必着）	課題・面談日	選考内容
人間生活学部	人間発達心理学科	2月25日(月)～3月11日(月)	3月16日(土)	エントリーシート 面談 課題 (小論文、高校までの 基本的な力を問う問題)

※AO入試の詳細については、『AO入試のご案内』をお取り寄せください(募集・入試センター ☎0120-8164-10)。

※AO入試に興味のある方は、入試説明会に参加してください。

Check! **入試説明会** 2月21日(木)、3月7日(木) 13:00開始／本学新座キャンパスにて／事前予約不要

編入学入試

学部	学科	募集定員	出願期間	試験日	合格発表
人間生活学部	人間福祉学科(社会福祉コース)	5名	郵送:2月26日(火)～3月5日(火) 窓口:3月6日(水) 9:00～12:00	3月16日(土)	3月19日(火)
	生活情報学科	5名			
	メディアコミュニケーション学科	5名			

★人間福祉学科は、卒業時に社会福祉士国家試験受験資格を取得できます。

◆学校見学

随時受け付けています。事前予約は不要。
HPにて開室カレンダーを公開しています。
参考にしてください。

[月～金]9:00～17:00

[土]9:00～12:00

※日曜祭日は除く。

◆オープンキャンパス

日時:3月24日(日) 13:00～16:00

場所:本学新座キャンパス

※事前予約は不要。入退場自由。



平成24年度公開講座レポート

今年度も多彩な公開講座をお届けしました。

十文字学園女子大学大学開放・地域連携推進センターでは、今年度も公開講座、桐華祭講演会、小学生対象の「子ども大学にいざ」、彩の国大学コンソーシアム主催の講座など、多彩な「学びの場」を提供してまいりました。その中から一部、講座内容や会場の様子をご報告します。

■桐華祭講演会

10月の桐華祭では、伊達家18代当主の伊達泰宗氏をお招きし、「伊達家当主が語る戦国武将の素顔」を開催しました。定員200名を超える参加者があり、大変好評でした。(6、7ページに講演要旨)

■新座市内大学公開講座

新座市教育委員会との共催で開かれた公開講座(全4回)のテーマは「くらしと文学～人生を豊かにする食と言葉のちから」。7～12月にかけて開催され、第1回の「はじまりは坂の途中でー日本文学逍遙のすすめー」は、学園創立90周年・短期大学部表現文化学科開設記念講演会として東京大学大学院総合文化研究科教授のロバート キャンベル氏をお招きし、写真とともに江戸文化を解説していただきました。第2回「ファイトこそ私の人生～川島昭恵・語りの世界～」の講師は、盲目の

語り部・川島昭恵氏。自らの人生の歩みを交えて、あまきみこ作「お母さんの目」、杉みき子作「夜のくだもの屋」、安房直子作「魔法をかけられた舌」を語っていただき、その幻想的な世界に来場者も引き込まれました。

第3回「山川菊栄・その人の活動ー監督とのトーク&シネマ」では、監督の山上千恵子氏をお招きし、大正時代に男女平等の社会を求めて活動した山川菊栄の生誕120周年記念映画ドキュメンタリーの上映と、映画製作の取材などで見えてきた山川菊栄の素顔をトーク形式で語っていただきました。

第4回「シニアのための調理教室ー食と健康ー」では、食物栄養学科の小谷スミ子教授が食べ物と健康の関連性をわかりやすくレクチャーした後、同学科の佐々木菜穂助教、芝崎本実助手の実習指導のもと、沖縄料理を調理し、試食しました。どの講座も参加者に喜ばれる内容で、「また参加したい」との感想を多くいただきました。

■彩の国大学コンソーシアム公開講座

人間福祉学科の片居木英人教授が、9

月に「わかりやすい人権のはなし」と題した講座を実施し、参加者は熱心に耳を傾けました。

■子ども大学にいざ(全5回)

新座市内の小学生4～6年生を対象にした学習の場。本学では全5回のうち2回分を担当し、9月に第1回「はてな学：雑木林で虫の“ナゾ解き”をしよう！」を開催しました。

児童教育学科の津吹卓教授が子どもたちに伝えたのは、「虫の気持ちになって考えるとナゾ解きができる」ということ。教室には「蝶と蛾の違い」を考えさせるためにたくさんの標本を用意し、その中から蛾を探すという課題を出す子どもたちは標本に集まって真剣に違いを探していました。

翌10月には、井口磯夫名誉教授がロケットの飛ぶしくみを講義する、第2回「はてな学：なぜ、宇宙ロケットは飛ぶのだろう？」を実施。ペットボトルで水ロケットを組み立て、グラウンドに出て発射台に設置し、空気入れて空気を圧縮し、その圧力で水を噴射して飛ばしました。高く遠く飛ぶと歓声が上がっていました。



新座市内大学公開講座
「シニアのための調理教室ー食と健康ー」



彩の国大学コンソーシアム公開講座
「わかりやすい人権のはなし」



子ども大学にいざ
「はてな学：雑木林で虫の“ナゾ解き”をしよう！」

平成25年度の公開講座の詳細につきましては、本学ホームページまたは「新座キャンパスだより」をご覧ください。ご案内パンフレットをご希望の方は、大学開放・地域連携推進センターまでご連絡ください。

大学開放・地域連携推進センター
TEL：048-477-0958（直通）
FAX：048-477-0764
E-mail：ext@jumonji-u.ac.jp